

平成27年度指定管理運営業務評価表

施設名称：大阪府立障害者交流促進センター	指定管理者：ファインプラザ大阪運営事業共同体	指定期間：平成25年4月1日～平成30年3月31日	所管課：福祉部 障がい福祉室 自立支援課
----------------------	------------------------	---------------------------	----------------------

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の自己評価		施設所管課の評価		評価委員会の指摘・提言		
			評価 S～C		評価 S～C			
「提案の履行状況に関する項目」 ①施設の設置目的 （身体障害者福祉センターA型の機能）及び管理運営方針	・施設の設置目的に沿った運営がなされているか。  【指定管理者選定時の選定基準】 1 施設の設置目的を理解しているか （交流施設であること、身体障がい者福祉センターA型施設であること） 2 提示した管理運営方針 （「専門性の高い職員の指導」「誰もが安心してスポーツに取り組むことができる」「最小限の経費で最大の効果が上がる運営」と、事業者が提案した管理運営方針に合致するか） 3 提案事業者・法人として社会貢献活動、環境活動、法令遵守などの取組み状況	<b>(1) スポーツ振興を中心に障がい者の福祉の増進</b> ① 陸上、水泳、卓球、アーチェリー、FDなどの競技別にアスリートの競技能力を高めるプログラムを体系的に実施 <体制> ・府の福祉行政に精通した者や経験豊富な上級障がい者スポーツ指導員6人を配置 <総合スポーツ大会> ・第15回大阪府障がい者スポーツ大会の実施 実施 5/10～5/24（5日間・6競技） 参加 904人 ・第15回全国障害者スポーツ大会に大阪府選手団を派遣 開催県 和歌山県 開催 10/24～10/26 派遣選手団 161人（選手103人・役員58人） 獲得メダル数 107個（過去10年間で最高のメダル獲得数） <記録会> ・陸上記録会の開催 実施 4/25 ・水泳記録会の開催 実施予定 3/21 <種目別大会> ・近畿障がい者フライングディスク大会の開催 実施 4/29 ・バリアフリーアーチェリー大会の開催 実施 9/23 ・大阪車いすハンドボール大会の開催 実施 11/8 ・大阪ボッチャ大会の開催 実施 11/23 ・バドミントン大会の開催 実施 12/23 ・卓球大会の開催 実施 2/11 ・サウンドテーブルテニス大会（視覚障がい者卓球）の開催 実施 2/11 ② 大学連携事業の実施 ・大阪体育大学との連携協力に関する覚書の締結 8/28 ・「ほっぷ・すてっぷ・ダンス」の開催（旧びかつとダンス名称変更） 提案6回 120人 実施10回 参加者529人 ・「だるまダンス」の開催（新規実施） 実施 10回 参加者250人 ・「みんなでつくる発表会」の開催 実施 11/22 4回 参加者220人 ・「車イステニス練習会」の開催		S	<b>【評価の目安】</b> S＝提案内容以上の事業実績をあげている。 （例：市町村など身近な場所で障がい者スポーツ活動を支援した結果、活動の定着に至った。など。） A＝提案内容どおりの事業実績をあげている。 （例：大学・企業との連携、研究会を設置し、検討を開始している。など。） B＝提案内容どおりの事業を実施予定であり、実施する見通しも立っている。 （例：研究会の設置について、具体的な調整を進めている。など。） C＝提案内容事業を実施する見通しが立っていない。 （例：館内事業のみを行い、外部団体等への普及啓発や連携活動を行っていない。など。）  <b>【自立支援課の評価】</b> (1)スポーツ振興を中心に障がい者の福祉の増進 ・全国障害者スポーツ大会で設定されている競技種目を中心に多彩なスポーツ教室を設定するなど、提案どおりの事業を実施している。 ・第15回全国障害者スポーツ大会における獲得メダル数が過去10年間で最高となるなど、競技力向上に努めた成果が認められる。 ・大学連携事業については、ほとんどの事業が提案を大きく上回る実績を積んでおり、新規に中級のダンス教室を開催するなど、裾野拡大に努めている。 ・相談事業についても、提案回数を大きく上回っているが、利用人数ゼロの回もあり、更なる工夫が必要である。 ・障がい者スポーツ指導員の養成など間接的な支援も実施するなど、多角的な支援を提案どおり行っている。		S	・大阪府と指定管理者において綿密に連携をとりながら、効率的かつ利用者本位の運営に引き続き取り組まれない。  ・「みんなでつくる発表会」は学生などを含め、障がいのある方と障がいのない方とで、共にプログラムを作りみんなで発表しあう点で、他の施設ではあまり見られない交流の機会を設け、この施設ならではの特色が出ており評価できる。

			<p>提案 2 回 60 人 実施 2 回 12/13 (36 人)、3/27 (募集中)      &gt;以上の 4 事業 連携大学=大阪体育大学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふれあい乗馬体験講習会」の開催        提案 1 回 10 人 実施 2 回 11/7・15 参加者 13 人        &gt;連携大学=大阪府立大学</li> </ul> <p>③ 相談事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士による生活相談        提案 12 回 実施 20 回 (1 月末現在)</li> <li>・障がい者スポーツ指導員によるスポーツ相談        提案 24 回 実施 40 回 (1 月末現在)</li> <li>・健康運動指導士による健康相談        提案 24 回 実施 40 回 (1 月末現在)</li> <li>・ファインブラザ利用者相談 (随時)        提案 240 回 実施 1,164 回 (1 月末現在)</li> </ul> <p>④ 「中級障がい者スポーツ指導員養成講習会」の実施      実施 8/1～2/7(10 日間) 修了者 12 人</p> <p><b>(2) 競技スポーツ分野の指導力を高めるための調査研究</b></p> <p>① 障がい者スポーツの振興に関する研究会の開催      委員=学識経験者 (大学教授)、障がい者スポーツ団体、パラリピアン、障がい者スポーツ指導員 等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●第 1 回 H25.12.18        &lt;内容&gt; 研究テーマの確定        「障がい者スポーツの競技力向上のためのトレーニングプログラムの開発」など計 3 テーマ</li> <li>●第 2 回 H26.9.3        &lt;内容&gt; クロストレーニングを取入れた「水泳」の強化プログラム、練習スケジュールを作成し、その後他の競技へ広めていくことを確認 外 1 テーマ</li> <li>●第 3 回 H27.12.2        &lt;内容&gt;       <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ 1 「障がい者スポーツ競技力向上プログラム (素案)」</li> <li>・テーマ 2 「障がい者スポーツ大会運営モデル (素案)」</li> </ul> </li> </ul> <p><b>(3) 地域における障がい者スポーツを振興するための事業</b></p> <p>① 地域スポーツ振興課を設置 (職員 3 名配置)</p> <p>② 地域展開事業として、大阪府視覚障害者福祉協会、府立堺東高校、羽曳野市立河原城中学校など小中高学校、障がい者団体等に出向きスポーツ活動支援      提案 100 件 10,000 人 実施 117 件 24,818 人 (1 月末現在)      ※地域展開事業 (出前事業、研修受入、指導員派遣等) の利用促進を図るため、大阪府教育委員会及び市町村教育委員会を通じ、府立高</p>		<p>(2)競技スポーツ分野の指導力を高めるための調査研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究会について、競技力向上のためのトレーニングプログラムや大会運営のマニュアル等を開発することを目的としている。</li> <li>・今年度は第 3 回研究会を開催し、第 2 回目までの議論を具体化するため、「障がい者スポーツ競技力向上プログラム」や「障がい者スポーツ大会運営モデル」の素案を作成しており、スケジュール通りの進捗状況である。</li> </ul> <p>(3)地域における障がい者スポーツを振興するための事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提案どおり職員を 3 名配置</li> <li>・PR 強化など利用促進に努めた結果、実施回数、参加人数とも提案を上回る実績を上げ、昨年に比べ大幅な改善が認められる。</li> <li>・学校や市町村に加え、これまで実施してきたスポーツクラブの中には、障がい者スポーツが定着し、自主開催が可能となるクラブが現れるなどの成果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々がグループ単位で利用できるようになれば、利用が増え、定着にも繋がる。地域に働きかける活動を展開することにより、利用者を増やす効果が期待できるのではないか。</li> </ul>
--	--	--	--	--	---	---

			<p>校、府立支援学校、小・中学校に教員を対象とした、「障がい者スポーツ体験研修」の案内を送付。</p> <p>また、研修参加教員にPRを行った結果、事業申込みや問い合わせが広がり、地域展開を数回実施した学校や総合型地域スポーツクラブ（門真はすねクラブ）では、障がい者スポーツが定着し、自主開催が可能になり、障がい者スポーツ用具の貸し出しが増加。</p> <p>※PR強化として、支援学校長会・支援学校PTA会・支援学校教員に直接PRを行うとともに、大阪府障がい者スポーツ大会市町村説明会において市町村障害者スポーツ担当者に事業紹介を実施</p> <p><b>(4) マルチジョブ化による人件費の軽減</b></p> <p>① 利用受付、電話受付業務等については、管理部門、事業部門の区別なく誰もが行う</p> <p>② 指導現場においては、水泳のスポーツコーチがトレーニング室においてトレーニングの指導を行うなど、専門分野を重視しつつも、すべての指導員が専門分野を超えて指導に従事</p> <p><b>(5) 省エネ対策</b></p> <p>① 関西エコオフィス宣言にそって、冷暖房期間、適切な温度を設定</p> <p><b>上記の事項を着実に実施することにより、身体障害者福祉センターA型の機能をいかに発揮した。</b></p>		<p>が認められる。</p> <p>(4)マルチジョブ化による人件費の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ指導など専門的分野を除き、一般的な利用者への接遇については、職域の範疇を超えた対応を行っている。</li> <li>・スポーツ指導においては専門性を重視しつつ、指導員の配置ローテーションにより、すべての指導員が専門競技以外の指導を行っている。</li> </ul> <p>(5)省エネ対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提案どおり実施している。</li> </ul>	
<p>②平等な利用を図るための具体的手法・効果</p>	<p>・公平なサービス提供、対応</p> <p><b>【指定管理者選定時の選定基準】</b></p> <p>1 事業等の内容が平等利用を担保する内容となっているか</p> <p>2 高齢者、障がい者等に対して配慮を要する事項について適切な提案がなされているか</p>	<p><b>(1) 特に障がい者・高齢者に配慮し、すべての利用者に平等な施設サービスの提供</b></p> <p>① 人権研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオによる啓発研修 等</li> </ul> <p>(年3回)</p> <p>② すべての障がい種別や幅広い年齢に対応した多様なスポーツ教室の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャレンジスポーツ（ファインプログラム：障がい者優先、リハスポーツ：脳血管疾患の後遺症のある方、重度身体障がい者個別水泳指導など）</li> </ul> <p>提案 300回 3,132人 実施 286回 3,320人（1月末現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サウンドテーブルテニス練習会・アスリート強化練習会（視覚障がい者卓球）</li> </ul> <p>提案 6回 90人 実施 15回 参加者 163人（1月末現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回親子ボウリング大会の開催（弁天町グランドボウル）</li> </ul> <p>実施 7/26 参加者 40人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府知的障がい者サッカー教室（J-GREEN 堺）</li> </ul> <p>実施 2/7 参加者 105人</p>			<p><b>【評価の目安】</b></p> <p>S＝提案内容どおりの事業実績をあげている。 (例：提案書の内容については、すべて実施済み。など。)</p> <p>A＝提案内容どおりの事業を実施予定であり、内容についても具体的に決定している。 (例：事業実施日が到来していない。など。)</p> <p>B＝提案内容どおりの事業を実施予定であり、実施見通しも立っている。 (例：事業実施の関係者調整を行っている段階である。など。)</p> <p>C＝提案内容事業を実施する見通しが立っていない。 (例：研修の実施予定なし、機関誌の未発行など、事業実施の目途が立っていない。など。)</p> <p><b>【自立支援課の評価】</b></p> <p>(1)特に障がい者・高齢者に配慮し、すべての利用者に平等な施設サービスの提供</p>	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ庁・大阪府委託事業「地域における障がい者スポーツ普及促進事業」（堺東高校、高槻市スポーツ団体協議会、泉北支援学校） 実施 11/5 12/5 12/15 参加者 436 人</li> <li>・大阪府教育委員会放課後子ども総合プラン（箕面市中小学校、岸和田市城北公民館、高石小学校など） 実施 6/26 7/30 12/3 1/23 2/20 参加者 293 人</li> <li>・カヌー体験教室 （日本障害者カヌー協会・パラリンピックキャラバン） 実施 12/12 参加者 38 人</li> <li>・共に生きる障がい者展 みんなでつくる発表会（ダンスなど） 障がい者スポーツ体験 障がい者スポーツ紹介 11/14、15 参加者 10,644 人</li> </ul> <p>③ 総合受付に利用案内、送迎バス運行時刻表、料金表等を配置 玄関ホール右側にファインプラザ大阪、左側に障がい者スポーツ協会の掲示板を配置し、各事業案内、トピックス等を掲示 また、ロビー正面には大型モニターにより事業案内などを分かり易く案内 さらには、視覚障がい者対応として、受付前と三階ロビー及び一階エレベータ前に点字による施設・利用案内板を設置</p> <p>④ 聴覚障がい者対応として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受付に手話通訳者を配置</li> <li>・イベント開催時手話通訳者を配置</li> </ul> <p>⑤ 視覚障がい者対応として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・点字パンフレットを作成</li> </ul> <p>⑥ メールマガジンを月 2 回（火曜）発行、スポーツ・文化事業やイベントの報告などを掲載するスタッフブログの随時更新 また、機関紙「アベニュー」の発行及び点字版を作成</p> <p>⑦ 利用案内の英語版を作成</p> <p>⑧ 館内案内表示に英語表示を追加</p> <p><b>(2)管理運営にかかる情報公開請求への適切な対応</b></p> <p>①ファインプラザ大阪運営事業共同体情報公開規程を整備 (H25.4)</p> <p><b>(3)施設運営にかかる要望、苦情に対する迅速、適切な対応</b></p> <p>① ファインプラザ大阪運営事業共同体苦情解決規程を整備し、苦情解決責任者、受付窓口責任者を指定、また、第三者委員会を設置し、三名に委員を委嘱 (H25.4)</p> <p>② ファインプラザ大阪の事業運営について、地域や利用者の視点から評価・提言を行うための運営協議会を開催</p>	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、新たにスポーツ団体と連携して、親子ボウリング大会や知的障がい者サッカー教室などを開催し、多様なスポーツの機会提供に努めている。</li> <li>・手話通訳者の配置、点字パンフレットの作成、利用案内の英語版を作成など障がい者や外国人が利用しやすい環境づくりに配慮している。</li> <li>・メールマガジンやホームページの更新などについて、提案どおり実施し、機関誌「アベニュー」の発行についても、提案どおり発刊している。</li> <li>・スタッフブログについては、提案（毎日更新）どおりに更新がされていない状況にある。</li> <li>・今年度においては、館内案内表示に英語表示を追加するなど継続的に改善努力を行っている。</li> <li>・研修の実施や案内板の設置などに加え、すべての障がい種別などに応じた教室の開催や、コミュニケーション手段を確保するなど、提案どおりの事業を実施している。</li> </ul> <p>(2)管理運営にかかる情報公開請求への適切な対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提案どおり規程を制定している。公開請求は現在のところなし。</li> </ul> <p>(3)施設運営にかかる要望、苦情に対する迅速、適切な対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・苦情解決規定、運営協議会の設置など、提案どおりの事業を実施済みであり、記載した以外にも軽易なご意見・ご要望については、早期に対応している。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフブログについては、形式的な案内ではなく、行事や施設の詳しい中身を掲載しており、ブログを見れば施設を利用したことがない方にも非常に分かりやすい内容となっている。</li> <li>・ブログの更新について、スタッフに負担があるのであれば、原稿の協力をしてもらうなど、連携している大学へ依頼するのも一つの方法ではないか。</li> </ul>
--	--	---	---	--	---	--

		<p>実施 3/2</p> <p>③ 「ご意見箱」を総合受付横、3階ロビー、プール受付横の3カ所に設置し、毎日回収 提案、苦情については、可能な限り取り入れ また、回答は掲示板に掲示し公表 意見等件数 11件(12月末) 【主な意見】 ・割引回数券を作って欲しい ⇒大阪府に報告 ・更衣室(プール)の下足箱あたりと女子更衣室が臭い。 ⇒除菌消臭剤の散布と換気(応急処置)</p> <p>④ 利用者からの生の声を聴くため、施設利用者との意見交換会を開催 実施 11/29 出席者=主催者6名、利用者14人 【主な意見】 ・他の施設に比べ休館日が多く、利用時間が短い。 ⇒大阪府に報告 ・情報資料室の利用時間を夜8時までにして欲しい。 ⇒来年度から8時まで延長します。</p> <p>⑤ 利用者に対する満足度調査を実施し、要望・苦情等の常時把握に努め、適切な対応と改善 1回目 満足度調査実施月 9月(1か月間) 回答287件 ・総合評価 とてもよい21% よい47% ふつう32% ・接遇評価 とてもよい41% よい39% ふつう18% ・指導評価 とてもよい29% よい45% ふつう24% ・施設満足度 とてもよい24% よい45% ふつう29% 2回目 3月実施中</p> <p><b>上記事項を着実に実施することにより、公平なサービスの提供、対応ができた。</b></p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>運営協議会について、障がい当事者団体の代表者を招聘し、同センターにとって障がい当事者の意見や要望を聞くことは重要かつ必須であるため、昨年度に引き続き、今年度も開催した。</li> <li>11月に利用者意見交換会を行い、利用者の意見を吸い上げる取り組みを実施している。</li> <li>フィットネス関連の人気プログラムの定員超過に関する改善要望を受けて、速やかにコマ数を増やす対策を講じるなど、機動的な改善努力が認められる。</li> </ul>		
③利用者の増加を図るための具体的手法・効果	<p>・利用者増加のための工夫</p> <p>【指定管理者選定時の選定基準】</p> <p>1 提案事業に関するもの (第4次大阪府障がい者福祉計画・大阪府スポーツ推進計画に沿った提案か) (独創性、実現可能性、利用者増加の期待性、サービス向上のための取り組み内容)</p> <p>2 年間の広報計画の内容は適</p>	<p><b>(1) 利用者増加のための工夫</b></p> <p>① 障がい者スポーツの振興に関する研究会の開催 【再掲】 <b>P2参照</b></p> <p>② ひろめるー「障がい者スポーツ市町村展開事業」 各種水泳教室の実施をはじめ各市町村の学校等に出向いて障がい者スポーツの啓発、指導などの取り組みを実施 ・地域展開事業 【再掲】 ※PR強化として、支援学校長会・支援学校PTA会・支援学校教員に直接PRを行うとともに、大阪府障がい者スポーツ大会市町村説明会において市町村障がい者スポーツ担当者に事業紹介を実施</p>		S	<p>【評価の目安】</p> <p>S=提案内容以上の事業実績をあげている。 (例:新たな取り組みにより、新規利用者の拡大を図っている。など。)</p> <p>A=提案内容どおりの事業実績をあげている。 (例:提案内容どおりの事業を的確かつ確実に実施している。など。)</p> <p>B=提案内容どおりの事業を実施予定であり、実施する見通しが立っている。 (例:事業実施に向け具体的な調整を進めている。など。)</p>	A	<p>・地域の方々がグループ単位で利用するようになれば、利用が増え、定着にも繋がる。地域に働きかける活動を展開することにより、利用者を増やす効果が期待できるのではないか。【再掲】</p>

	<p>切か (独自ネットワークの活用、親しみやすさ、1利用者増加の期待性)</p> <p>3 自主事業の提案は、利用者の増加、サービスの向上を図るための工夫がなされている提案となっているか (提案の有無、独創性、利用者増加の期待性)</p> <p>4 施設の設定、機能をフル活用した内容となっているか</p>	<p>③ たのしむー「交流促進事業・生涯スポーツ事業」        チャレンジスポーツとしてのリハスポーツ（脳卒中後遺症、重度障がい者個別水泳教室）や交流促進を推進するための健康増進推進講習会の開催、また、体験型として障がい者プール体験事業などを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャレンジスポーツ            提案 300回 3,132人            実施 286回 3,320人（1月末現在）</li> <li>・障がい者プール体験事業            提案 7回 140人            実施 14回 178人</li> </ul> <p>④ きわめるー「競技スポーツ分野の重点実施」        大阪府障がい者スポーツ大会の開催をはじめアスリート強化のために陸上、水泳の強化練習などを実施し、選手のレベル向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アスリート強化練習会            提案 501回 6,230人            実施 490回 6,268人（1月末現在）</li> <li>・選手育成練習会            提案 123回 6,060人            実施 272回 5,389人（1月末現在）</li> <li>・水泳教室、サマースクール            提案 212回 5,310人（870人、2,220組）            実施 225回 3,919人（1月末現在）</li> </ul> <p>⑤ つたえるー「HPの活用・センター情報誌の発刊等の情報発信」        機関紙「アベニュー」やホームページを活用して情報発信に努力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HP、メルマガ、スタッフブログの随時更新</li> <li>・機関紙「アベニュー」の発行            発行回数 4回（727か所に送付）</li> </ul> <p>⑥ つながるー「大阪府・障がい者スポーツ団体NPO法人系事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との連携            「ファインエリアフェスティバル」の開催            実施 10/18            後援 12団体、協力3団体            参加 24団体            来場者 8,068人            「クリスマスのつどい」の開催            実施 12/12            参加者 185人            「こどもの日のつどい」の開催            実施 5/5</li> </ul>	<p>C＝提案内容事業を実施する見通しが立っていない。        （例：研究会の設置について、委員の人選が決まっていない。など。）</p> <p>【自立支援課の評価】        (1)利用者増加のための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究会の実施について、① 2ページ(2)のとおり、より実践に資する研究を進めた。</li> <li>・支援学校長会や、各団体主催の競技大会等に出席し、ファインプラザ大阪の周知及び大阪府障がい者スポーツ大会への参加を呼び掛けており、潜在的な利用者の開拓をするなど、積極的な活動を行っている。</li> <li>・メールマガジン、ホームページなどについて、提案どおり実施している。ホームページについては、全面的なリニューアルを行った。また、機関誌「アベニュー」の発行についても、提案どおり発刊している。</li> <li>・スタッフブログについては、提案（毎日更新）どおりに更新がされていない状況にある。</li> <li>・大阪府障がい者スポーツ協会など、府内一円を管轄する団体の事務局を複数担い、大会の開催や指導者養成などを実施し、大阪における障がい者スポーツの普及・啓発の中心的な展開を図っている。</li> <li>・新たな取り組みとして、トップアスリートの情報発信や硬式少年野球の利用許可、府事業の「共に生きる障がい者展」への出展などを行っており、利用者増に向けた努力が認められる。</li> <li>・提案に対し実施回数などで差が生じている事業もあるが、おおむね提案内容どおりの事業実績をあげると見込まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設のキャパシティをどれくらい活用できているのか検証し、障がいのある方とない方の交流を促進しながら、さらなる有効活用を図り、障がい者スポーツの振興を図ればどうか。</li> <li>・スタッフブログについては、形式的な案内ではなく、行事や施設の詳しい中身を掲載しており、ブログを見れば施設を利用したことがない方にも非常に分かりやすい内容となっている。【再掲】</li> <li>・ブログの更新について、スタッフに負担があるのであれば、原稿の協力をしてもらうなど、連携している大学へ依頼するのも一つの方法ではないか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【再掲】</p>
--	--	--	---	---

			<p>来場者 1,976人  「新春卓球まつり」の開催  開催 1/11  参加者 294人  ・大学との連携 【再掲】  P1参照  ・競技団体との連携  「大阪障害者フライングディスク協会」の事務局運営  近畿障がい者フライングディスク大会の開催  実施 4/29 参加者 114人  市町主催のフライングディスク大会への審判員の派遣  「近畿身体障害者水泳連盟」の事務局運営  「ファインプラザ大阪大会記録会の開催」  陸上記録会 4/25 参加者 36人  アーチェリー大会 9/23 参加者 66人  大阪車いすハンドボール大会 11/8 参加者 84人  大阪ボッチャ大会 11/23 参加者 105人  バドミントン大会 12/23 参加者 84人  卓球大会 2/11 参加者 118人  サウンドテーブルテニス大会 2/11 参加者 24人  水泳記録会 3/21 (募集中)  「第1回親子ボウリング大会の開催」  実施 7/26 参加者 40人  「大阪府知的障がい者サッカー教室の開催」  実施 2/7 参加者 105人  ⑦ 「大阪府障がい者スポーツ協会」の事務局運営  ・「大阪府中級障がい者スポーツ指導員養成講習会」の開催  実施 8/1～2/7 (10日間) 修了者 12人  ・「大阪府障がい者スポーツ指導員現任者研修会」の開催  実施 3/6  ・ひらかたハーフマラソン視覚障がい者の部開催  実施 1/11 67人  ・障がい者アイススケート教室の開催  実施 2/17・19 48人  ⑧ 自主事業の開催  ・「ゆったりヨガ教室」の実施 (毎週金曜日)  実施 30回 参加者 1,472人 (1月末現在)  ⑨ トップアスリートの情報発信  世界選手権に出場している FPO スタッフ藤田真理子指導員、FPO  競泳選手コース廣田真一選手を中心に、選手の応援や世界での活躍を  ポスターや大型パネルで施設内外に情報を発信。  ⑩ 利用者増加のための新たな取り組み</p>			
--	--	--	--	--	--	--

- ・硬式少年野球の利用許可（使用内容に制限）
- ・ファインプラザ大阪のダンス事業「みんなで作る発表会」を「共に生きる障がい者展」に初出展
- ・府立支援学校PTAに対し、ファインプログラム等の事業広報実施
- ・「ファインエリアフェスティバル」ののぼりを新調し、近隣住民、通行人に賑わいをアピール
- ・情報資料室充実のために府立中央図書館に図書の寄贈申入れ（74冊の図書の受入れ）
- ・HPを分かり易くリニューアル
- ・堺南消防署と相互リンクを貼り施設PRを実施

**(2) 利用者数の増加**

(1) の取り組みによって利用者数を増加

利用者数（障がいのない人）の推移（4月1日～1月31日）

年度	障がい者	障がいのない人 (介助者含む)	計
24	75,664	78,176	153,840
25	75,212	58,008	133,220
26	77,681	57,031	134,712
27	79,354	64,914	144,268

上記の実施状況から、利用者増加を図るための積極的な事業展開、広報活動ができた。

(2) 利用者数の増加

・障がいのない人の利用は4月から1月までの対前年比で約14%の大幅増となり、H25年度の駐車場有料化に伴う減少に歯止めをかけた。また、障がい者（介護者を除く実数）の利用は、同比較で約2%の増となっており、前年に引き続き、安定的な利用は確保されているものと推測される。

（障がい者

H26：77,681人⇒H27：79,354人 2.2%増）

（障がいのない人

H26：57,031人⇒H27：64,914人 13.8%増）

・利用者増加の要因は、H26年度からの駐車場使用料の2時間無料化が定着してきたことが考えられるが、FPO職員から来場者への地道な利用の働きかけなどのPR活動、利用者の要望に対する速やかな対応なども効果を現していると思われる。